

大阪大学外国語学部外国語学科

朝鮮語専攻紹介



海外交流

岸田文隆*

Osaka University: School of Foreign Studies: Korean Section

Key Words : Korean

1. 朝鮮語専攻の概略

韓流ブームなどのおかげで今ではすっかり一般的になった韓国・朝鮮語であるが、本学朝鮮語専攻の歴史は決して古くはなく、日韓国交正常化の直前の1963年に大阪外国語大学に朝鮮語学科が設置されたのを始めとする。それでも戦後日本の大学に朝鮮語の専門課程が設置されたのは、私立の天理大学に続いて2番目で、国立大学としては初めての快挙であった。戦後しばらく日本社会がこの隣国のことばに無関心であった状況を物語るものである。

2007年に大阪大学と統合して、現在の外国語学部外国語学科朝鮮語専攻となったが、教員スタッフの構成は1963年の設置当初と変化がなく、日本人の専任教員3名と韓国人の特任教員1名から成る。学生の募集定員は18名。今やマイナー言語から脱しつつある朝鮮語の現状に比して、「老舗」の本専攻のこの規模は少々見劣りがするけれども、我々教員と学生はいたずらに規模の拡大を追わず足元を固めるとの気持ちで日々の活動に取り組んでいる。

大阪大学との統合によって得られた本専攻にとっての最大のメリットは、韓国の一流大学への交換留学の道が開かれたことであろう。大阪大学はソウル大学、延世大学など韓国の名だたる大学と交流協定を締結しているが、大阪大学から先方大学へ交換留学学生として派遣される学生の大半は本専攻の学生が

占めており、この制度を利用して本専攻の学生は韓国の大学の最先端の研究と教育に接し専門的知識の獲得につとめている。

卒業生は様々な分野で活躍しているが、最も典型的なケースは貿易・外交・マスコミなどの分野で日韓交流の最前線に立つことである。日本国内はもちろん、韓国各地で活躍する卒業生の姿が見られる。

2. 朝鮮語の概要

主に朝鮮民族によって使用される言語で、日本の隣の大韓民国および朝鮮民主主義人民共和国、中華人民共和国吉林省長白朝鮮族自治州・延辺朝鮮族自治州の公用語。大韓民国では「韓国語」、朝鮮民主主義人民共和国では「朝鮮語」と名称が異なるが、この両者は言語的には同一のものである。

話者数は、世界全体でおよそ7500万人程度と推定され、朝鮮半島に7100万人の話者がいるほか、アメリカ、中華人民共和国（特に延辺朝鮮族自治州）、日本、旧ソ連などにも話者が分布している。

文法構造は、日本語にきわめてよく似ている。言語類型論の観点から見ると、日本語と同じ膠着語であり、主語・目的語・動詞のSOV型の語順をとる。修飾語は被修飾語に先行し、前置詞ではなく後置詞（助詞）を用いる。その助詞の中には、日本語の「ハ」と「ガ」にほぼ相当するものがある。また、敬語法が語尾（助動詞）として用言の文法範疇となっている点も日本語に一致している。

音韻面では、日本語とかなり異なっており、類似点が少ない。音節構造は、日本語と同じく、母音の前後に最大1つの子音があらわれうる(C)V(C)の構造であるが、音節末尾にあらわれうる子音が、日本語には撥音(N)と促音(Q)の2つしかないのに対し、朝鮮語にはm・n・ŋ・p・t・k・lの7つがある。子音には、日本語のように清濁ではなく、平音（無



*Fumitaka KISHIDA

1960年4月生
京都大学大学院文学研究科博士後期課程
単位取得退学
現在、大阪大学 言語文化研究科 教授
文学修士 朝鮮語学
TEL : 072-730-5198
FAX : 072-730-5198
E-mail : fkishid@lang.osaka-u.ac.jp

気音)・激音(有気音)・濃音(声門閉鎖音)と称する3系列の対立がある。母音は、i・e・ε・a・ɔ・o・u・w の8母音から成り、日本語よりも母音の数が多。

語彙は、その来源により、固有語、漢字語、外来語の3つに分けられる。固有語は古来からの朝鮮語である。全ての品詞に広く分布しており、朝鮮語の語彙の核であるが、基本語彙の中にも、漢字語によってかわられたものがある。例えば、山をあらわす固有語「[뫼 moi]」は、現在一部の合成語に化石的に残るのみでほとんど用いられず、一般には漢字語「산 san」(山)が用いられる。漢字語はおおむね中国語由来の語彙である。中国との長い間の接触の過程において中国語から直接に借用されたもののほか、近代以降の日本との接触において日本製漢字語を借用したもの、朝鮮独特の漢字語がある。外来語は(漢字語以外の)外国語からの借用語である。英語やロシア語からの借用語のほか、植民地時代に流入した日本語からの借用語や、高麗末期に元朝から流入したモンゴル語からの借用語などもある。

朝鮮語の方言は大きく本土地方言と済州方言に分けられ、そのうちの本土地方言は西北方言(平安道方言)、東北方言(咸鏡道方言)、中部方言(黄海道、江原道、京畿道、忠清道方言)、西南方言(全羅道方言)、東南方言(慶尚道方言)の5つに分類される。このうち、最も標準語と異なっているのは、済州方言であるが、この方言には朝鮮語の古語にかつて存在したアレアと呼ばれる母音「・(ɔ)」が残っているのが特徴である。済州市の観光課が、この方言を使いながら済州島の観光ができるようにとの意図のもとに『드림 몰라 마라바사 압주(聞いていてはわからない。話してみてもそわかる)』というきわめてユニークなテキストを発行しているが、その中から1パラグラフを引用して、この文の末尾に載せておくこととする。これにより、この方言が標準語とどれほど異なるかがわかるであろう。

朝鮮語の系統については、アルタイ諸語や日本語と類型論的な類似点が多いことから、その関係がさかんに議論されてきたが、音韻対応の法則を見出すには至っておらず、依然として未解決の状態である。

朝鮮語の歴史は、現存する文献資料の性格の違いに基づいて、ハングル制定(1443)以前の古代語、1443年より壬辰倭乱(1592)までの中期語、1592

年より甲午改革(1894)までの近世語、それ以降の現代語に区分することができる。朝鮮語のすがたが歴史的に明らかなのは、ハングル制定以後のことであるから、古代語の研究にとっても、近世語以降の変遷の研究にとっても、中期語の確実な把握が発点となる。

3. 朝鮮語と日本との関わり

朝鮮語は日本の隣国のことばであるため、深い交流の歴史がある。江戸時代には、対馬や薩摩苗代川で朝鮮語の通詞の養成がおこなわれたが、そのときに使用された語学書の一部がいまもなお伝わっている。この文章を終えるにあたり、それらのテキストのひとつを紹介したいと思う。テキストの書名は「漂流民対話」。薩摩苗代川に伝わったもので、1836年頃の成立。内容は題名の示すとおり、苗代川の朝鮮語通詞と薩摩に漂着した朝鮮人漂流民との対話である。対話は漂流民の薩摩漂着から長崎への護送までの取り調べや病人の介護、船の修理など種々の話題におよぶが、以下の一節は、そのうち長崎への護送を間近にひかえたお別れ会の場面である。

「漂流民対話」上巻より

朝鮮語通詞： 다들 數日을 넘지 아냐 도라가게
되니 今日은 燒酒를 먹이고져 ㅎ매 量대로먹게
ㅎ고 ㅅ 燒酒 못 먹는 사람은 국슈 장만ㅎ엿
길넌 辭讓치 말고 宗용이 먹게 ㅎ여라
皆ども數日をすぎず かえるやうになるにより 今日
は燒酎をのませたひ故 きこんに呑やうにいたし
又 燒酎のまぬ人は 素麵をよういいたしたから
じぎせず ゆるりと呑やうにせい

漂流民： 오늘은 着念ㅎ읍셔 餞別의 燒酒를 주
시고 못 먹는 사람들은 국슈 먹이시니 果然 安
心치 아니ㅎ읍넌 僉公넌 우리들 가달기
數十日間 特別이 곡정을 ㅎ여 주실 ㅅ 아냐
오히려 이처로 厚待ㅎ시믈 넘스외 感謝히
너길 中 慚愧ㅎ기는 知恩報恩이런 말이 잇스
오되 漂人들이오매 厚意를 감플 길이 업스외
그 ㅅ 에 ㄷ고 不安ㅎ ㅅ ㅅ이 測量업습넌
국슈는 ㅅ대로 먹고 燒酒도 만히 먹엇습기
의 그만의 畢蓋ㅎ읍소
こんにちは お気をつけられて ご餞別に燒酎を下

され 吞へませぬものどもは そふめんをおふるま
いなさるにより まことにかたじけなうござります
る ご一統さまは 私どもにかかわって 数十日間
かくべつ お心づかひをなされくださるのみなら
ず まだも かやうに あつふ おとりもちにあつ
かりまして かたじけなうぞんじまする内 恥入ま
するは 恩を知って恩に報ずと申ことがござります
れども 漂人どもでござる故 厚意をほうずるみち
がござりませぬ それのみ のこりおおく やすか
らぬにより かぎりござりませぬ
そうめんは はらにみちるだけたべ 焼酎もよけい
にたべましたから それまでに ご納盃なされませ

朝鮮語通詞：쇼주는 아직 瓶의 남았더니 이제
또 한두 잔씩 勸하고 시브니 브라건대 盡加
之로 먹고돈 主人 ㅁ음이 쉬원하거든
しょうちゅうは まだ とくりに残っておるにより
今又一二さんづつしいたひほどに ねがわくは あ
りかぎりに呑んだらば 亭主のところが すっぱり
とあらふ

漂流民：다들 앓가부터 辭讓업시 無數히 먹고
믹오 醉하엿스오되 盡加之로 먹키고져 하시고
계산지 厚待하신 意向을 엿지 거수리잇가
비록 泥醉홀지연정 아니 먹스오리잇가
皆ども せんこくより おじぎなふ おびただしう
たべ いたって酔ましたれども ありかぎり呑ませ
たいとおっしゃれてまで おあつふ おとりもちな
さる お心ざしを どうしてそむきまっしゃうか た
とひ めいていすと申ても のみますまひか

朝鮮語通詞：글로 이녁도 든든하고 기브거든
それで此方もおちつき よろこばしひ

数十日におよぶ漂流民の取り調べと介護を終え、焼
酎と素麺で漂流民を歓送する場面であるが、「鎖国」
の当時にあってなおもこのような国境を越えた友情
が存在したことを伝えている点で、意義深い資料と
言えるであろう。

朝鮮語の文例

朝鮮語濟州方言の例
(観光案内所で)

【濟州方言】㉠호뽕 보게 맛썸. ㉡흔저 읍서.
무시게 도와 드리카마썸. ㉢유명관광지, 숙박,
교통안내를 호뽕 해 줍서. ㉣그것밖에 잇수파.
㉤경하고 쇼핑, 밥먹을 만흔 덕도 마리쳐
줍서. ㉥이디 제주관광안내 책자와 지도를
안네크메 보십서. 또 여행사신티 곶앙
돌아댕기는 것도 편안하우다. ㉦고맙수다.
㉧잘 구경하셔.

【標準語】㉠조금 보십시오. ㉡어서 오십시오.
무엇을 도와 드릴까요. ㉢유명관광지, 숙박,
교통안내를 조금 해 주십시오. ㉣그 밖에는
없습니까? ㉤그리고 쇼핑, 식사할 만한 곳도
가르쳐 주십시오. ㉥여기 제주관광안내 책자와
지도를 드릴 테니 보십시오. 또한 여행사한테
말해서 돌아다니는 것도 편안합니다.
㉦고맙습니다. ㉧잘 구경하십시오.

【和訳】㉠ちょっとお願いします。㉡いらっしゃいま
せ。何でしょうか。㉢有名観光地、宿泊、交通の案
内をしてください。㉣そのほかにはございませんか。
㉤それからショッピング、食事できる所も教えてく
ださい。㉥さあ、濟州観光案内パンフレットと地図
をさしあげますのでごらんください。あるいは旅行
社に言って回るのも便利です。㉦ありがとう。
㉧お気をつけて観光なさってください。



ソウルに留学中の本学学生と仁寺洞で